

第三十二回「全日本中学生水の作文コンクール」岐阜県優秀作文集

水について考える

主催

国土交通省 岐阜県

後援

文部科学省 全日本中学校長会

独立行政法人 水資源機構

水の週間実行委員会

「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、暮らしの中で体験している水にまつわる話や、祖母、両親、先生から学び聞いた話などをもとに、「水」や「今後の水の使い方」について、考えていただくという趣旨で、「水の週間」の行事の一環として実施しています。

今年、第三十三回を迎え、岐阜県表彰として最優秀賞一作品及び優秀賞二作品を選定しました。

この三作品について、このたび優秀作文集としてとりまとめました。いずれも中学生の皆さんの真剣な思いが伝わってくる作品です。ぜひ御一読ください。

「第三十三回全日本中学生水の作文コンクール」

一・応募要領 テーマ：「水について考える」（題名は自由）

対象：中学生（中学生と同じ学齢の者を含む。）

原稿：四百字詰め原稿用紙四枚以内で日本語により表記されたもの

あて先：岐阜県県土整備部河川課（岐阜県内の応募者）

募集締切日：平成二十三年五月十六日（到着分有効）

版權等：応募作品は個人作品に限る。

応募作品の版權は国土交通省及び岐阜県に帰属する。

応募作品は返却しない。

二・応募状況 応募学校数 二校 応募総数 五作品（一年…一作品 三年…四作品）

三・審査 応募作品について岐阜県で審査（地方審査）を行い、岐阜県表彰として最優秀賞一作品 優秀賞二作品を選

定。なお、これら二作品について、中央審査対象作文として国土交通省に推薦

目次

岐阜県最優秀賞

「水とわたしたち」・・・・・・・・・・・・・・・・可児市立蘇南中学校三年・・・西尾 深月 3

岐阜県優秀賞

「水について考える」・・・・・・・・・・・・・・・・可児市立蘇南中学校三年・・・佐久間 未歩 5
「ぜいたくは敵だ」・・・・・・・・・・・・・・・・可児市立蘇南中学校三年・・・平井 里奈 7

「水とわたしたち」

可児市立蘇南中学校

三年 西尾 深月

“水の都”とも呼ばれる大垣で産まれた私にとって「水」というものは、きれいであることが当たり前でした。だから、「世界には水道水を飲むことができない国がまだたくさんある」と聞いた時、私は驚きが隠せなかったのを今でも覚えています。しかし、それでも私は依然と水に対して無頓着で、水を出しっぱなしにしたり、石けんを必要以上に使ったりしていました。

そんな私が水に対して考えるようになったきっかけは、小生のとき参加した「川の清掃活動」です。大垣は「水の都」と呼ばれるくらいだから川にゴミなんてほとんどないだろう、と思っていた私は友達と軽い気持ちで参加をしました。しかし、実際に川へ行ってみると、「これが本当に水都の川なのか」というほどゴミが捨てられていることがわかりました。

この経験を通して私は、きれいな水のありがたさを学び、

そして私たちにはきれいな水を守る義務がある、ということを感じました。

では、私たちがきれいな水を守るためにできることはなんでしょうか。私は「無駄遣い」をなくすことだと思っています。

実際に我が家では節水に取り組んでいます。お風呂の残り湯を洗濯に使ったり、シャワーや水道の水を出しっぱなしにしないなどと、どれも小さなことばかりですが、家族全員で取り組んでいます。成果として、我が家の水に対する意識が変わってきたような気がします。それに対して母はいつも「結局は小さいことが大切なんだよ。」

と言います。私もその通りだと思っています。小さなことかもしれないけれど、やっぱりそれが一番大切なことだと思います。身近な水を守れない人は、日本や世界の水も守ることができません。だからみなさんもぜひ、身近なことから始めてみてください。きっと私のように素敵なことが学べるはずですよ。

日本はありがたいことに「水の国」と呼ばれるほど、水に恵まれています。おかげで水に関して困ったことは、ほとんどないと思います。だからこそ、みなさんに問いかけたいです。そんな国に生まれた私たち日本人がこんな水の使い方を

していても良いのでしょうか。私はいけないと思っています。

世の中にはこんなに便利になった今でも、この世界のどこかにはたったのコップ一杯の水が飲めなくて苦しんでいる人がたくさんいます。きれいな水をいくら求めても得られない人がたくさんいます。しかし、私たちは、蛇口をひねれば好きなだけきれいな水を得ることができます。当たり前、と思う人がいるかもしれませんが、これは幸せなことなのです。

みなさん、水に恵まれた国、日本で暮らす私たちがこのよ
うな姿では、水不足で困っている国の人たちに失礼です。恵
まれているからこそ、私たちには守る義務があります。そし
て感謝する義務があります。恵まれているからありがたさや
大切さがわからない、ではいけません。恵まれていてもいな
くても、水のありがたさや大切さを感じるチャンスはたくさ
んあります。もう少し、水というものに意識を向けてみてく
ださい。きっとあなたのチャンスが見えてくるはずです。そ
して、一緒に水のありがたさや大切さをたくさんの人へ伝え
ていきましょう。

私は、水に恵まれているから「水の国」と呼ばれているの
ではなく、水のありがたさや大切さをどの国よりもわかって
いるから、という意味で「水の国」と呼ばれます。

さあ、大切にしよう、水を。私たちの手で、そして力で。

岐阜県優秀賞

「水について考える」

可児市立蘇南中学校

三年 佐久間 未歩

私たちは毎日当たり前のように水を使っています。飲むために、料理を作るためにも、トイレのためにも、体や物をきれいにするためにも水は私たちにとって欠かせないものです。普段何気なく使っている水ですが、外国と日本で違いがあることを知っていましたか。

私は前、家族でスペインと中国に行ったことがあります。ホテルにつくと、水道の近くにペットボトルの水が置いてありました。なぜだろうと思って聞くと、おなか痛くなるから水道水を飲んではいけないと言われました。日本で普通に飲んでた水道水を飲んではいけないと言われ、とても驚きました。またお風呂に入ったときにいつもは全然気にしていませんでしたが、髪の毛のすべりが悪いような気がし

た。このような日本と中国、スペインの水の違いはなんだろうと不思議に思ったので調べてみました。

答えは水の「硬さ」にありました。水に硬い軟らかいなんてあるのかと思いますが、あるのです。水は雨や雪が岩石や地下の岩盤などに浸透して、伝わって流れていく間に岩などに含まれている鉱物を溶かし込んでいます。そして長い時間をかけて湧き水として噴き出してくるのです。地中の鉱物が溶けて含まれるミネラルの配分によって、軟水と硬水にわけられます。ミネラルの比較的小さい水を軟水、多い水を硬水と呼んでいるそうです。日本の地下水は、地下にとどまっている期間が短く、地中のミネラル分の影響が少ないため軟水が多いのです。それに対してヨーロッパなどの大陸の水は石灰岩が多い上に、地下の滞留期間が長いためにミネラルが溶けすぎてしまい、硬水となってしまいます。水の硬さが違うから軟水に慣れてる日本人はお腹をこわしてしまったり、水の違いを感じるのかと納得しました。

この水の硬さを知ったところで、水の硬さによる違いをさらに知りたくなりさらに調べてみました。まず、水の味の違いが出るそうです。一般的に硬い水は口に含むと引き締まった味がします。冷蔵庫で冷やせば、味のクリスタル感は一層

強調され、よりおいしく感じると言われています。一方、軟らかい水は口の中で優しく広がります。香りや風味を大切に
する日本茶や紅茶などを淹れるときは、軟らかい水が向いて
いるそうです。もう一つ水の違いは料理にも反映されるそう
です。ヨーロッパのように料理にはあまり向いていない硬水
のところと、日本のように軟水のところでは、料理方法が変
わってくるそうです。フランス料理では水を使うよりも、蒸
したり、

油でいためたり、牛乳やワインを加えて煮たりすることが多
いです。日本料理では古くから水を使った煮物、汁物、ゆで
物といった料理が多いです。水の違いは食生活の違いにまで
影響していることが分かりました。

最近の日本では、おなかをきれいにするためにわざわざヨ
ーロッパの水を買っている人もいます。これから、どちらの
水がいい悪いというよりもそれぞれの水の特徴を知ってつま
く使えたらいいと思います。

岐阜県優秀賞

「ぜいたくは敵だ」

可児市立蘇南中学校

三年 平井 里奈

先月、私の家の水道代が二万円を超えました。原因は、私の必要以上のシャワーの出しすぎや、顔を洗う時の水の出しっぱなしです。私の家で水道代が二万円を超えたことは初めてでした。それについて母が私をしかった時、私は父母が一生懸命、働いて稼いだお金と水を必要以上に使ってしまった後悔と、地球への申し訳なさを感じました。

私はある事を知りました。なんと、三分間シャワーを出しっぱなしにすると、三十六リットルもの水を使ったことになり、一分間蛇口の水を出しっぱなしにすると十二リットルも水が流れてしまうのです。

私はいったい何分間、シャワーを出しっぱなしにしていたのでしょうか。五分、十分、多い時には三十分間くらい水を無

駄に使用していました。そして、計算すると私は三六〇リットルも無駄に水を使用していたことになりました。

また、世界には川の水や井戸水しか飲むことができず、きれいな水を飲むことができない国があることも事実です。日本では蛇口をひねるとすぐにきれいな水が流れ、トイレの水も飲むことが可能です。そんな暮らしをしている私には世界に、きれいな水を飲むことができない国があることに驚きをかかせませんでした。また、乾燥地帯に住んでいる人々は何日も水が飲めず、餓死してしまうことも少なくはないそうです。

そんな中、私は三六〇リットルもの水を無駄にしてしまいました。私が無駄にしてしまった水を、どれだけの人が必要としているでしょうか。そう考えた時、私は何とも言えない気持ちになりました。

けれども、考え方を変えれば私が水の無駄遣いをなくせば、たくさんの人を助けることが可能になるのです。

そこで私は水の無駄遣いをなくすため、自分にできる事を考えてみました。考えてみるとたくさんの方がありません。

まず第一に、シャワーや蛇口をこまめに止めること。これだけでたくさん水を減らすことができます。

第二に、お風呂の残り水をもう一度洗濯などに利用することです。さらに、食器洗いの際にはため洗いをします。コップに水をくんで口をすすぐなど無駄遣いをなくすために、私達にできることはたくさんあります。最近では節水器具を使用する家庭も多いそうです。

このような事を行動にうつすことで、水の無駄遣いをなくすことができ、水道代も安くなります。まさに一石二鳥です。

今、私達が住んでいる日本にはきれいで安心して飲むことができる水がいたる所にあります。そんな国で生活しているからこそ、水がどれだけ大切かを考えなければいけません。水を出しっぱなしにする時、遊びで水を使用する時、その時に流した水がたくさんを救う事ができるということを思いうかべなければなりません。そう考えれば、水の無駄遣いがなくなるでしょう。私は今、顔を洗う時や体を洗う時、

「この水で命を救う事ができる。」
と考え、こまめに水をとめています。自分にできることを進んで行うことが大切です。